

しんさんようどうをのぞむ

# 新山陽道を望む

## ～七日市通りの新たな景色～

なのかいちどおりのあらたなけしき

### 背景 神辺の今と問題とは何か

神辺町は広島県福山市東部に存在する人口四万六千人ほどの町である。廉塾や神辺本陣を始めとした歴史史跡が多く残る町であり、江戸時代当時の宿場町としての情景を伝える史跡が多く残っている。

その中でも現在神辺本陣と呼ばれているものは「西本陣」と呼ばれていた脇本陣であり、かつては「東本陣」が存在したものの、現在は消失してしまっている状態である。

### 目的 本計画にあたっての狙い

本計画は、神辺町全域の文化史跡や産業の魅力を発信する拠点となる場所の提案をする。神辺の文化史跡や産業を観光材料にして観光目的の地域活性化を図る。

また、観光客たちや地元住民たちにとっての憩いの場として機能させ、住民同士や観光客同士での交流、観光客と住民たちとの交流の機会を設けるスペースとしても機能させ神辺町に人の流れを形成する。

### 目的 本計画にあたっての狙い

神辺町は繊維産業を基幹産業としている。主に金襴や織物、デニム生地を生産地であり町内には現在も繊維業に従事する会社が多く存在する。現在は染物を始めとしたデニム生地を生産地として有名である。また、はね踊りと呼ばれる伝統文化も残っており、毎年秋ごろにその光景を見ることができる。ほかに、日本酒や和菓子が名物として知られている。



坂本デニムの生地



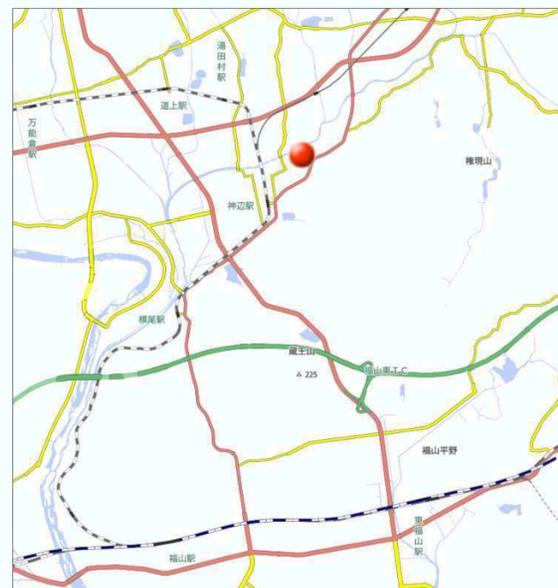
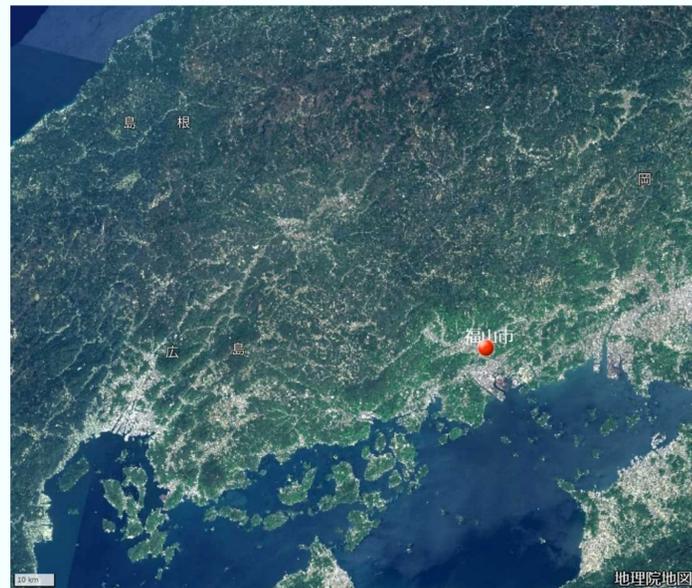
中村金襴の金襴



神辺跳ね踊り



天寶一の日本酒



しかしながら現在の神辺町には、これらの文化や産業の魅力を発信する拠点が存在しない。このような現状では、魅力あふれる神辺の歴史や文化、産業に触れることが非常に難しく、これらに関する情報の発信を満足に行うことが出来ていない。

### 基本計画 設定したコンセプト

『神辺の歴史と文化を、見て、体験することができる、神辺の魅力を発信する拠点となる場所を作る』

上記のコンセプトを根底にして、本計画は二種類の『拠点』を設計する。

表:旧宿場町の面影を利用し、今の神辺にはない「観光案内所」を中心とした「人が集える場所」を景観の中に落とし込む事で、景観を損なわず魅力を発信可能な拠点『かなび』を提案する。

裏:東本陣の跡地を利用し、神辺の歴史を知ることのできる資料館や着物や染物などを体験することが出来る機能を内包した文化や産業に触れることのできる複合施設『パティオなのかいち』を計画する。

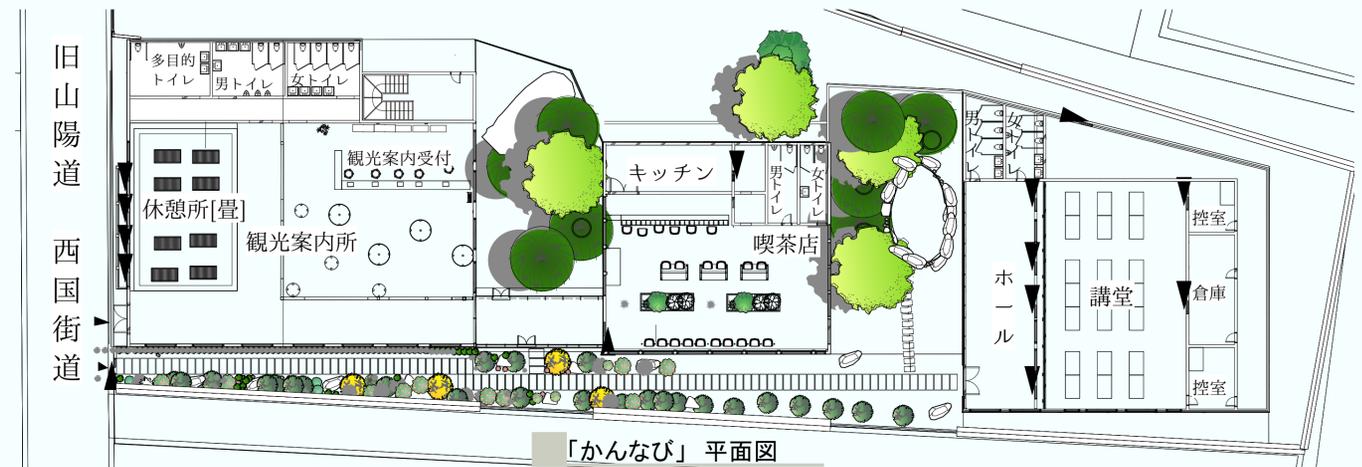
# 観光案内センター『かなび』



なまこ壁や格子窓、通り土間や屋根の形式を始めとした、町家の意匠を纏った外観の中には、外部から訪れた観光客へタクシーの手配をする他、宿泊の手続きや神辺町で開催される様々なイベントや祭りへの参加予約、団体観光客にも対応するためのツアーガイドの手配など総合的な窓口の役割を持った観光案内所が設置されている。この場所が神辺町の新たな観光拠点となり、今回2つ計画する神辺町の魅力を発信する拠点のうちの1つである。

観光案内所を抜けて、通り土間を進んだ先には中庭と喫茶店が並んでいる。七日市通りや神辺町の住民や、外部の観光客達の休憩場所かつ、交流の機会を提供する場所である。更にその奥には多目的ホールが構え、そこで催し物や集会などを開催することで、人との交わりの機会を更に増やすことが可能。

観光目的で外部から訪れた人。昔から住んでいる地元の人。近くの地域からやってきた人。様々な人が、各々の目的をもって集う空間。それこそが、『地元民と観光客が交差する空間』、この観光交流センター『かなび』である。

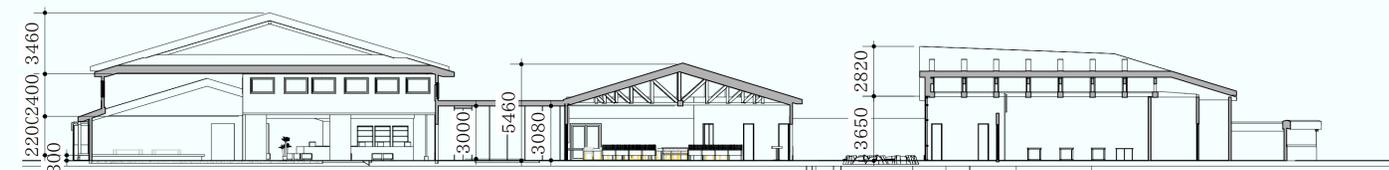


「かなび」平面図

**観光案内所。** 本施設のメイン機能。観光客たちはここを訪れ、観光地の紹介やイベントへの参加予約などのサービスを受ける。観光客どうしの憩いの場としても機能する。

**喫茶店。** 観光客はもちろん、地元住民たちも利用できる。観光客と地元住民の交流を生む場所である。中庭を両側に据え、庭の風景を楽しむことができる。

**多目的ホール。** 講演や展示会場での使用を想定している。正面がガラス張りのため、喫茶店の中から多目的ホール内の様子を見ることが可能。地元住民はもちろん、喫茶店で休憩している観光客がふと訪れられるような場所でもある。



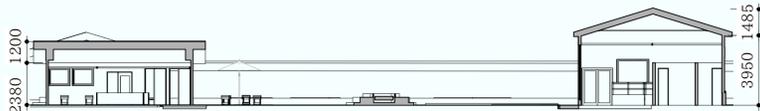
「かなび」断面図

# 複合施設『パティオなのかいち』

中庭のあるエリアには、「ミュージアムショップ」「レストラン」「レンタサイクル」「茶屋」、そして名前の通りかつての本陣、その跡地を模した形状の中庭が存在する。東本陣が立っていた場所を中庭としており、本陣の跡地を囲い込むように機能が配置されているのが特徴である。

この広い中庭では、訪れた人たちの憩いの場、遊び場として機能するほか、屋外でのイベントの会場としても使用可能な汎用性の高い空間となっている。例として神辺町の文化の一つである『跳ね踊り』をここで踊ることで、地元の人々や観光客の人々が観覧することができる。

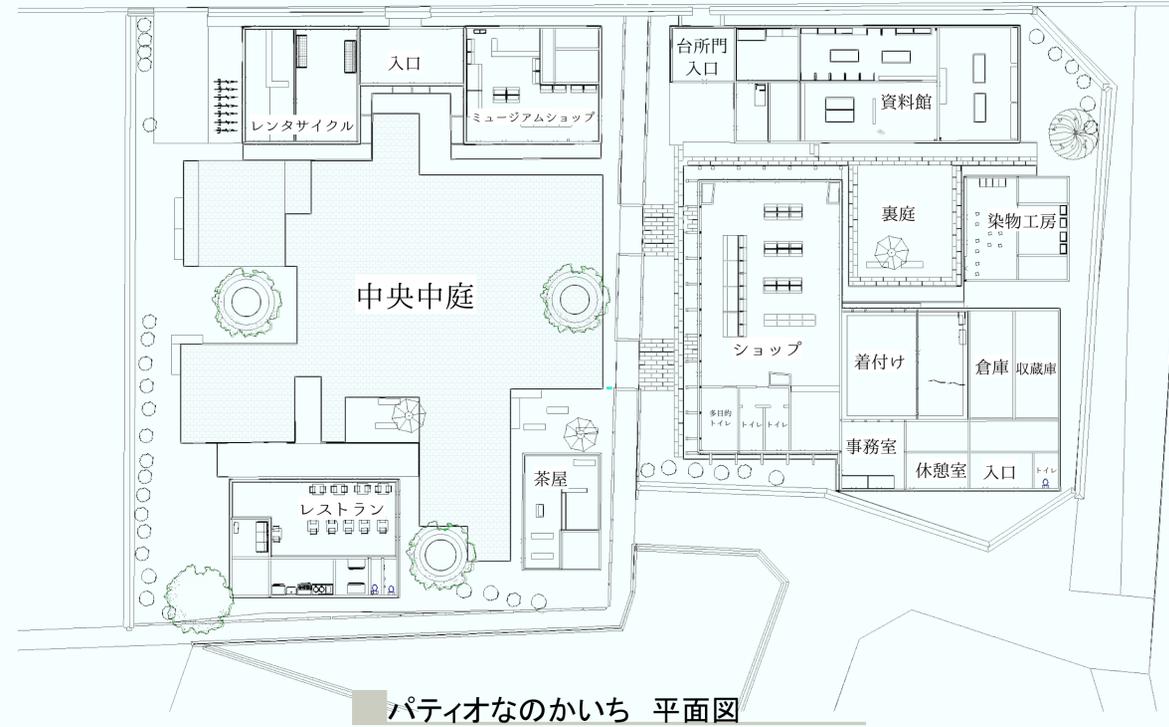
レンタサイクル受付奥には小規模の待合室、また中庭側に面した箇所がガラス張りになっている。レストラン、のんびり甘味や茶を楽しみながら座れる茶屋など、これらの機能は中庭を見て、そして寛ぐことを想定して、計画を行っている。



中庭側 断面図



中庭側 立面図



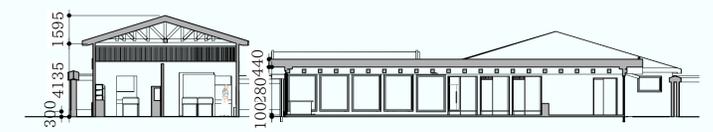
パティオなのかいち 平面図

旧台所門側エリアには、「資料館」「土産物売り場」「染物工房」「着付け部屋」「裏庭」、そして職員用事務所が存在する。職員たちは主に個々で休憩や事務作業を行う。職員用の入口も設けられている。

このエリアでは、「くつろぎ」を目的としていた中庭側ブロックとは違い、「文化」「体験」を狙いとして計画している。

台所門からアクセスすると、左手には資料館用の受付があり、入ってすぐに資料館に入館することができる。もしくはそのまま直進すれば、右手に広い中庭が、左手に土産物売り場と裏庭へのアプローチとなる飛び石を発見できる。

売店では観光客たちを対象とした食品はもちろん、神辺の伝統工芸品（デニムや織物、金襴）はもちろんこれらの機能は中庭を見て、そして寛ぐことを想定して、計画を行っている。



台所門側 断面図



台所門側 立面図



入口から中庭を望む



中庭 パース



土産物売り場 内観パース



レストラン内から中庭を望む



中庭から売店正面を望む